

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
-----	---------------	-----------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて、創造性豊かな青少年の育成を図る		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため ・ 科学館の管理運営を平成11年から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門的人材等を有しているため		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 令和元年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>「学校教育との連携」、「生涯学習の推進」、「地域・各種団体との連携」、「効率的かつ安心・安全な管理運営」を基本方針・基本目標に掲げ、「科学を育てるまちづくり」の推進に寄与した。</p>	<p>これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年の育成となるよう、今後も様々な学習機会の提供を期待する。また、引き続き、生涯学習の推進にも寄与するよう、幼児から高齢者まで幅広い世代の市民に親しまれる事業の実施にも期待する。</p>
	<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。</p>	<p>条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。</p>	<p>平等利用の確保に向け、市民の意見を取り入れるとともに、自ら発信することに努めており、評価する。</p>
	<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼ 電気、ガス、水道の使用については、空調設備及び電気設備業者と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。</p> <p>▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。</p>	<p>環境局と連携をとり、空調調整や「見える化システム」の導入などにより、効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。</p>	
	<p>▼ 「環境科学展」の開催や展示物により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。</p> <p>▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。</p>	<p>「環境科学展」の開催や、展示室内に太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民へ省エネ・環境配慮に関する取組を周知することができた。</p>	<p>市内の企業や団体と連携しながら、環境問題やエコに関する情報などを体験しながら学べるイベントを開催し、市民の環境に関する関心が高まる事業や展示を行っており、評価する。</p>

<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 業務分担、式命令系統、連絡系統を定めた。 ▼ 館長1名、課長2名、係長5名を配置した。 ▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・契約職員・アルバイト職員等の採用を行った。 ▼ 定期的に職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。 <p>▼ 人材育成のため、外部講師を招いて研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。</p> <p>▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛星委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。</p> <p>▼ 職員の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するために必要な事項を「財団安全衛生管理規則」や「衛星委員会設置要綱」で定め、衛生管理者を設置し衛生委員会を設けた。</p>	<p>適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。</p> <p>研修等に積極的に参加し、職員の専門性の向上、技術の向上を図ることができた。</p> <p>各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。</p>	<p>管理運営組織が確立されていることを評価する。なお、式命令系統、連絡系統など適切に活用し、館内の問題に対し、職員の意見などが反映できるよう協議や情報共有の場を設けること。</p> <p>財団の就業規則や36協定等については、財団内の研修において周知を徹底し、これらの規則の遵守を常に意識させるよう努めること。また、同一職員のみが時間外勤務することにならないよう法定外労働時間を確認しながら、事務分掌の見直しも適宜行うこと。</p>
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ ネットワーク環境の整備により、各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。 ▼ 日常により、事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。 	<p>これまでの運営経験で培われたノウハウを生かし、管理水準の維持向上につなげた。</p>	<p>管理水準の維持向上に向け適切に取り組んでおり評価するが、定期的に事故防止に向け見直す機会を設けるよう努めること。</p>
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。 	<p>施設の維持管理及び展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減及び業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。</p>

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 6月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の来館者数について ・平成30年度の主な事業報告について ・利用者の声について ・令和元年度の来館者数について ・令和元年度上半期の主な事業について ・その他、質疑・意見交換
第2回 11月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の来館者数について ・令和元年度上半期の主な事業報告について ・利用者の声について ・令和元年度下半期の主な事業について ・その他、質疑・意見交換
第3回 3月4日 (中止)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止
<p><協議会メンバー></p> <p>北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授、札幌市立屯田南小学校校長、札幌市立中島中学校校長、札幌市青少年育成委員会青葉地区会長、一般財団法人北海道歴史文化財団事業本部長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長</p>	

▼ 小中学校教員との意見交換

学校に特化した事業の検証を行うことで、学校連携事業の効果をより高めていくため、理科を中心とした各校種教員と科学館との意見・情報交換をそれぞれ行った。

北海道小学校理科研究会所属の教員と意見交換し、連携事業をすることで、児童・生徒への科学への興味関心を高めることができた。

意見交換を踏まえて、子どもたちの科学への興味・関心がこれまで以上に高まるよう既存の学校連携事業も見直し、更なる効果が生まれることを期待する。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士及び公認税理士による外部監査を導入し、適正に対応できた

資金管理、現金等の取り扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適切に取り組みされており、評価する。今後も適切な財務管理が行われるよう、職員間のチェックを怠らず意識啓発に努めること。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、資産の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。

▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組を行っている。

規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。

適切な取組を行っており、評価する。

▼ 現金等の取扱いについて「小口現金取扱要領」定め、適正に行った。

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。 ▼ 全ての職員が常に的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。 <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の待遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を逐次実施し、利用者の生の声を事業運営等に生かしている。 	<p>要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。</p> <p>アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が9割以上であり、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。</p>	<p>苦情等については、逐次報告があり、適切な処理が行われているが、見直す必要のある内容には真摯に受け止め、職員間で情報共有をし、より良い運営に資するよう努めること。</p> <p>満足度は、一定の評価を得られており、今後も継続して高評価となるよう職員の待遇を含めた事業運営に期待する。</p> <p>また、各項目の中で今後の事業に生かせる内容については、運営や接遇に反映させ、これまで以上に幅広い層の市民に科学館を楽しんでもらえるよう、引き続き、検討していくこと。</p>				
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなど、適正な労働環境の確保に努めている。 ▼ 「財団就業規則」や「財団給与規則」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。 	<p>関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。</p> <p>社労士に委託し、相談窓口の設置や労務環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋げた。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努めた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: #FFC0CB;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>職員の働きやすい環境となるよう、必要に応じて財団諸規則の見直しを行うとともに、職員の声にも常に耳を傾けながら、業務が平準化するよう努めること。</p> <p>また、専門性の向上という視点からも雇用環境が改善されるような取組に期待する。</p> <p>過度な労働をさせないなど職員が働きやすい労働環境となるよう36協定などを遵守し、定期的な意識改善となるような研修の実施などに努めること。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 災害時の対応について、マニュアルに基づき、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成、役割分担等を作成し、利用者の安全確保に努めている。 ▼ 利用者を安全・円滑に避難誘導させることができるよう、無線機を備え、新たな避難要領を作成した。 	<p>各種災害に関する避難マニュアルを作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td style="background-color: #FFC0CB;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>引き続き、安全確保の強化に向けた取組を期待する。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の感染防止についても科学館としての新しい様式を検証しながら、利用者の安全確保に努めること。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)については、第三者委託により実施している。 ▼ 躯体の老朽化に伴う修繕について、札幌市教育委員会と調整を図った。 ▼ 屋外タイル等躯体以外の老朽化に伴い、破損箇所が発生しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。 ▼ 展示物の老朽化に伴い、休止中のものが存在しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。 <p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 防災計画を策定するとともに、年度内2回の防災訓練を実施し、避難体制の確認に努めた。 	<p>業務の効率化、施設・展示物の老朽化への対応として、教育委員会と連携し、計画的に対応することができた。</p> <p>火災や地震発生時の対応等、様々な災害を想定した訓練を実施することにより、災害発生時の対応力の向上を図ることができた。</p>	<p>適切に取り組みされており、評価する。 施設等の老朽化への対応については、利用者だけでなく近隣住民にも大きな影響を与える事故等につながる可能性があることから、教育委員会への密な連絡・報告を徹底すること。</p> <p>展示物の老朽化に対しては、適切な管理を行っているだけでなく、様々な工夫を施し対応しており、大変評価する。</p> <p>適切に取り組みされており評価する。 なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること。</p>												
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。 見て、触れて、考えるをテーマに、天文・地球科学、北方圏、電気、力学などの各コーナーの展示物をより楽しく理解しやすくするよう努め、来館者に科学への興味・関心を深めてもらった。 ▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 ・夏休み「体験！発見！お家を科学する」 24日間開催(来館者36,107名) (協力：日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会青年委員会) (主な取組)家の中に隠れた様々な科学や科学技術について、展示を通して体験しながら学んでいた。 ・冬休み「地球のフシギを体感！Hawai'i展」 15日間開催(来館者17,099名) (協力：アポ岳ジオパークビジターセンター、北広島市エコミュージアムセンター、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所、厚別区図書館、サンピアザ水族館、市立開成中等教育学校、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、東海大学札幌教養教育センター、北翔大学、北海道札幌北高等学校、北海道大学総合博物館、ホテルエミシア札幌、三松正夫記念館) (主な取組)南国の雰囲気を味わいながら地球科学について体験を通して学んでいた。 ・春休み「春だ！わくわくサイエンス！」 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止 	<p>展示物を通して広く市民に科学や科学技術の知識を提供できた。</p> <p>小中学生の長期休暇期間等に、特定のテーマを掘り下げた展示・実演を行い、科学の楽しさ、面白さを伝えることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 夏の特別展では、「家」をテーマにすることで、身近にたくさん科学や科学技術が活用されていることを紹介し、市民の科学への興味・関心を高める良い企画となっており評価する。 また、冬の特別展では、「ハワイ」をテーマにすることで、南国の雰囲気と地球科学について体験できるよう工夫した取組を行っており評価する。 なお、今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、引き続き、幅広い層の市民に楽しんでもらえる特別展の実施に期待する。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。				夏の特別展では、「家」をテーマにすることで、身近にたくさん科学や科学技術が活用されていることを紹介し、市民の科学への興味・関心を高める良い企画となっており評価する。 また、冬の特別展では、「ハワイ」をテーマにすることで、南国の雰囲気と地球科学について体験できるよう工夫した取組を行っており評価する。 なお、今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、引き続き、幅広い層の市民に楽しんでもらえる特別展の実施に期待する。			
A	B	C	D												
常設展示だけでなく、実演展示による解説員と来館者とのコミュニケーションを通し、科学に対する興味関心が高まるよう工夫した運営をしており、評価する。															
夏の特別展では、「家」をテーマにすることで、身近にたくさん科学や科学技術が活用されていることを紹介し、市民の科学への興味・関心を高める良い企画となっており評価する。 また、冬の特別展では、「ハワイ」をテーマにすることで、南国の雰囲気と地球科学について体験できるよう工夫した取組を行っており評価する。 なお、今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながら、引き続き、幅広い層の市民に楽しんでもらえる特別展の実施に期待する。															

・ゴールデンウィークスペシャルイベント「はやぶさ特集」
10日間開催(来館者21,359名)
(主な取組)全国科学館連携協議会から借用した展示物を中心に、パネル展やスタンプラリー、プラネタリウムテーマ解説など全館を挙げて小惑星探査機はやぶさ2のプロジェクトを紹介した。

・「国際周期表年2019特別展」
12日間開催(来館者9,871名)
(主な取組)メンデレーエフの周期率発券から150年を記念し、日本化学会が企画・制作した元素や周期表の重要性を伝える全国巡回展を開催した。

▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会を実施した。
・山崎直子宇宙飛行士特別講演会「宇宙に“住む”を考える」山崎直子(参加者177名)
・「すばる一般講演会 ハワイからみる宇宙～すばる望遠鏡のすごさに迫る～」
国立天文台先端技術センター教授 宮崎聡
(参加者84名)

▼ 2階「学習コーナー」に、科学及び科学技術に関する資料・図書を置き、学校の総合学習をはじめとする学習の補助とした。

一つのテーマを展示室・プラネタリウムそれぞれで取り上げたことで、科学館全体のイベントとしてまとまりが生まれた。また、話題性もあったため、各種メディアにも取り上げてもらうことができた。

山崎名誉館長の講和を実施することで、当館のPRとなり、新たな利用者の開拓につなげることができた。

展示室とプラネタリウムが連動した事業の実施は、これまで科学館に来館したことがないような方にも興味・関心が生まれるイベントとなることから、引き続き、このような企画の実施に期待する。

山崎名誉館長のイベントは幼児から高齢者まで幅広い層から人気がある内容のため、今後も講演などを通して本市科学館のPRに協力いただき、これまで科学に興味・関心がなかった方にも科学館に来館してもらえるようなイベントの実施に期待する。

▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催

▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。

・工作教室

科学原理の理解を深める機会を提供するため、小・中学生を対象に、簡単な工作教室を実施した。

小中学生向け 126回 参加者938名

夏休み 48回 参加者936名

冬休み 32回 参加者451名

アイデアをカタチにする工作会 12回 参加者32組64名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

● 各種実演

・サイエンスショー

来館者とのコミュニケーションを図りながら科学への興味・関心を深めてもらえるよう、不思議な現象の紹介や楽しい実験など実演ショーを行った。

649回 参加者18,458名

「おと おっと おととと！ 音の大実験」ほか

・ロボットショー

サッカーロボットの实演を行い、ロボットの動きを楽しんでもらった。

2回/日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

・テレビスタジオ

クロマキーなどテレビ番組で使われている特殊効果を紹介するとともに実際に撮影体験してもらう参加型の実演を行った。

2回/日

・低温展示室

札幌市の真冬と同じ気温である-10℃の部屋にて、南極の氷や流水などの展示を行った。また、新たに南極と北極の氷床コア(アイスコア)を国立極地研究所から借用し、展示した。

3回/日

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

・人工降雪装置

自然環境と同様の条件で雪を降らせ、雪や降雪に関する解説を行った。

4回/日

・ちょびっとサイエンス

展示室の入口で、簡単な科学体験や実演を行った。

38回 参加者1,764名

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

・日曜実験室

小中学生を対象に、身近な題材や科学現象をテーマにした実験教室を実施した。

64回 参加者795名

「のぞいてみよう！ 植物の世界」ほか

※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止

・実験・実習への協力

市内の小中学校等を対象に、学習指導要領を踏まえた内容で子どもの興味・関心を高める実演や実験・実習を行った。

学習サイエンスショー 26校26回 参加者1,773名

理科授業プログラム 5校 参加者470名

環境学習プログラム 1校 参加者53名

幼児のための学習サイエンスショー 5園4回 参加者119名

共通規格化した材料を基本として題材開発をすすめることで、材料準備等の効率性を高めることができた。また、工作難易度を下げた工作を開発することで、未就学児でも作成しやすいよう工夫した。

サイエンスショーや人工降雪装置の実演などとおし、科学や科学技術の知識を提供し、市民の興味関心を喚起することができた。

4カ月ごとにプログラムを変更し、様々な題材を取り扱うことにより、理科の面白さを伝えることができた。

サイエンスホールなどを活用し、来館する市内小学校を対象に学習単元に基づくサイエンスショーや理科授業プログラムを行うことで学習の理解を深めることができた。

科学を楽しめる実験や講座の実施においては、子どもから大人まで幅広く楽しむことができるよう努めており、評価する。

また、今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながらも、引き続き市民が楽しみながら実験等に参加できるような工夫した取組に期待する。

実演展示は、本市の科学館の特徴的な事業であるとともに、来館者の興味・関心を高めることにつながることから、機器が老朽化する中で事業実施自体が困難なものもあるが、引き続き利用者に楽しんでもらえるよう継続した運営に期待する。

また、今後は、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底しながらも、引き続き市民が楽しみながら実演に参加できるような工夫した取組にも期待する。

学習サイエンスショーや理科授業プログラムを通して、科学館の展示物や施設設備を活用した取組にも積極的に取り組んでおり、大変評価する。今後も、学校教育との更なる拡充に向けた事業の実施及び協力を期待したい。

<p>▼ サイエンジャー科学教室 小中学生を主対象に、科学や科学技術を体験的に学ぶ機会を提供し、実施にあたっては、専門機関や企業などと連携して行った。 15回 受講者326名 メカトロ教室「走れ！ロボットカー」(一般社団法人日本機械学会) ROBORABプログラミング教室(日本IBM㈱)ほか ※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止</p> <p>▼ 中学生による科学教室 子どもたちが多様な科学実験を体験できるよう、中学校や高校の科学部を主体とした団体の科学実験ブースを多数展開したイベントを開催した。 中学生によるサイエンス広場 5校34名</p> <p>▼ 大学生による科学教室 大学生の科学教育研究を支援するとともに、子どもたちへの科学への興味・関心を高めるため学生が小中学生を指導する科学教室を実施した。 2回 参加者41名 「大学生が教えるロボット相撲講座」 (北海道科学大学 ロボットダイナミクス研究室) 「さぐってみよう 夕焼け色のひみつ」 (公立千歳科学技術大学 理工工房)</p>	<p>他団体と連携し、様々な分野の体験型実験教室を実施できた。また、それらを通して職員の資質向上を図ることができた。</p> <p>中学校と高等学校の科学部の活動について市民に知ってもらう機会を提供することができた。</p> <p>参加者との年齢が近い大学生が講師をすることで、子どもたちが積極的に講座に参加するようになり、より効果的に科学教育普及活動を行うことができた。</p>	<p>専門的な機関や企業との連携により、普段の科学館のイベントと差別化を図ることができるため、市民のニーズをとらえた事業拡充に期待する。</p> <p>中学生や大学生との連携は、科学館に来館したことがない学生が科学館を訪れるきっかけとなることから、引き続き新しい利用者確保に向けた取組に期待する。</p>
<p>▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発</p> <p>▼ 生解説を含む投影で、年齢や理解程度に応じて柔軟に対応し、市民にわかりやすい星座・天文の解説を行った。 一般投影 1,233回 観覧者79,388名 特別投影 10回 観覧者1,707名</p> <p>▼ 学習投影 小中学校を対象に、学習指導要領及び各学校の教育課程を踏まえ、理科授業の一環として、天体の動き等を学習するプラネタリウム投影を行った。 260校 136回 観覧者18,860名</p> <p>▼ オート番組制作・購入 プラネタリウム投影時に上映するオリジナルのオート番組(ドーム全体に投影されるアニメーション動画)を科学館の特色、独自性を生かして制作した。また、市販の番組購入や既存のオリジナル番組のリメイクも検討した。 ・制作 一般向けオリジナルオート番組「もりのやきゅううちむ ふあいた一ずほしのせかいへ」 ・購入 「Wayfinders」、「HAYABUSA2～REBORN～」</p>	<p>プラネタリウムを活用し、天文分野の基礎的な知識から最新の話題までを紹介し、来館者の天文に対する興味関心を喚起することができた。</p> <p>学校では表現しにくい天体の動き等について、ドーム空間で再現することで児童・生徒の理解度を高めることができた。</p> <p>野球・絵本という他分野とコラボレーションした番組を制作することで、新規客層の来場につなげることができた。</p>	<p>一般投影のほか、特別投影も多数実施し、プラネタリウムを活用した効果的な事業を行っておりを評価する。 今後、天文に関する興味が一層高まる解説内容に期待する。</p> <p>各学校のスカイライン(360度映像)を投影しながら、子どもたちにとって天体がわかりやすく学べる場であり、科学館でしか体験することができない効果的な授業となっていることから、引き続き、理科が好きになる子供が増えるような取組に期待する。</p> <p>地元野球チームとコラボレーションして作成したオリジナル番組は、札幌市独自の内容となっており、大変評価する。 また、子どもたちが楽しめるように演出なども工夫しており、プラネタリウムのPRに大きく寄与している。 その他のオート番組についても、注目されている題材などを選定していたことから、今後も市民の利用増につながるような投影を期待する。</p>

<p>▼ キッズプラネタリウム 未就学児とその保護者を対象としたプラネタリウム投影を行い、親子で参加できる場を提供した。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止</p> <p>▼ 移動プラネタリウム 地理的・時間的に来館困難な学校等で移動プラネタリウムを用いた投影を行うことで学校教育との連携を図り、児童・生徒の天文に対する興味・関心を喚起した。 ・小学校 10校 観覧者464名 ・中学校 5校 観覧者778名</p> <p>▼ 字幕付きプラネタリウム 耳の不自由な人もプラネタリウムを楽しめるように、字幕付きの投影を行った。 2回 観覧者106名</p> <p>▼ プラネタリウム祭り プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともに、その魅力を広く市民に伝えるため、コンサートや絵本の読み聞かせなど、科学以外のジャンルと組合わせた内容のイベントを実施した。 4日間 観覧者2,833名</p> <p>▼ 移動天文台 市内各地に移動天文車と天文指導員を派遣することを通して、市民に天体観望の機械を提供し、新たに天文に興味をもつ市民層を広げることを目的に実施した。 申込47団体(天体観望会実施21団体、屋内実施19団体、中止7団体) 参加者3,539名</p> <p>▼ 札幌市天文台 天文に関する興味・関心を高めるため、札幌の中心部に程近い中島公園内にある天文台を公開し、日中は太陽を中心に、夜は季節の星座を中心に観望会を実施した。 午前284回 観覧者7,912名 午後284回 観覧者7,849名 夜間67回 観覧者2,781名 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止</p> <p>▼ 宇宙セミナー 宇宙・天文についての興味・関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招き、最新の天文情報に基づく講座を実施した。 2回193名 「宇宙開発最前線」、「金星探査機あかつきの旅」</p>	<p>左記のとおり未実施となった。</p> <p>来館が困難な児童・生徒に、天文分野の学習支援ができた。</p> <p>字幕を付けることで耳の不自由な利用者にも健常者にもプラネタリウムを楽しんでもらうことができた。</p> <p>科学以外のジャンルと組合わせた新たな切り口の企画を実施した。</p> <p>広く市民に天体観望の機会を提供し、天文知識を普及することができた。</p> <p>太陽や季節の星座の星を中心に広く市民に天体観測の機会を提供できた。</p> <p>「はやぶさ2」や「金星探査機あかつき」など、流行の話題・旬の話題を扱った講座を実施することができ、宇宙天文に関する市民の関心を高めることができた。</p>	<p>アウトリーチ活動は、科学館に来館できない子どもたちにとって、学校とは異なる授業を提供できる良い機会となっていることから、可能な範囲で継続した事業の実施を期待する。</p> <p>プラネタリウムの新しい活用方法を開拓し、これまで科学館を利用したことがない方も楽しめる事業を展開しており大変評価する。今後も新しい利用の仕方を検討しながら、より多くの市民が楽しめるイベントの企画に期待する。</p> <p>移動プラネタリウム同様、利用者の満足度の高い事業であることから、引き続き可能な範囲での実施に期待する。</p> <p>屋間、夜間公開を通して、多くの市民等に天文に関する知識の普及啓発を行っており、大変評価する。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、観望会の実施手法の見直しが検討されるが、引き続き多くの方々に天文知識を学んでもらえるよう工夫した観望会に期待する。</p> <p>「金星探査機あかつき」など話題のあるテーマで専門的な公演であり、市民の興味関心が高い内容である。引き続き、先端的な内容の研究・開発を市民に普及できるような講演に期待する。</p>
--	--	--

<p>▼ 大人のための天文教室 大人が天文について学べる機会を提供するため、初心者向けや中級者向けなど参加者の理解度に合わせて難易度を設定し、天体観測機器を活用した天文教室を実施した。 やさしく学ぶ星空教室 1回 受講者31名 はじめての天体写真講座 1回 受講者15名 詳しく学ぶ天文講座 1回 受講者37名(新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止)</p> <p>▼ 親子天文教室 楽しみながら基礎的な天文知識を身につけ、天体への興味・関心を深めてもらうため、小学生とその保護者を対象に、天文工作と天体観測を組合わせた天文教室を実施した。 6回 受講者106組248名</p> <p>▼ 天文指導員の養成 天文に興味を持っている学生や一般市民に定期的に研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。 登録者40名</p> <p>▼ 天文ボランティア養成講座 天文指導に興味・関心を持つ学生や一般市民を対象に、天体観望の初歩的な手法や星空案内方法などを取上げ、身近な人への天文普及を行なえる程度の能力を身につける機会を提供した。 1回全6日間 受講者19名</p> <p>▼ 昼間の星を見よう 科学館屋上天文台を活用し、毎週土曜日に昼間に見ることのできる星を観望し、悪天候の場合は屋上天文台に設置されている大型望遠鏡の解説を行った。 41回 観覧者586名 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため一部中止</p> <p>▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力</p> <p>▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度北海道青少年科学館連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会) ・令和元年度道央地区博物館等連絡協議会総会・第1回研修会等(道央地区博物館等連絡協議会) ・第28回(令和元年度)指定都市科学館連絡協議会(指定都市科学館連絡協議会) ・第29回全国科学館連携協議会幹事館及び総会(全国科学博物館協議会) ・全国プラネタリウム大会2019・福岡(日本プラネタリウム協議会) ・日本公開天文台協会第14回全国大会(日本公開天文台協会) ・第51回北海道南支部授業研修会(ソニー科学教育研究会) ・令和元年度全国博物館館長会議及び第1回全国科学博物館協議会理事会(全国科学博物館協議会) 	<p>天文現象の解説や天体観測機器を活用した天文教室を行うことで、市民への天文知識の普及啓発を図ることができた。</p> <p>親子で天文現象等について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと天文分野の魅力を伝えることができた。</p> <p>月1回程度の定例研修を通じて、天体観測の基礎的な知識を身に付けるとともに、移動天文台等を通じて星について伝える技術について研修機会を提供できた。</p> <p>天文指導に興味関心を持つ市民に対し、基礎知識を身に付ける機会を提供できた。</p> <p>科学館屋上の望遠鏡を活用し、来館者に対し昼間でも見られる明るい星を紹介することができた。</p> <p>関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員が資質向上につなげることができた。</p>	<p>生涯学習関連施設として、大人も学習できる場として寄与しており、評価する。引き続き、子どもだけでなく幅広い世代の学習機会の提供となるような取組に期待する。</p> <p>科学館や天文台で天文に関する知識の普及啓発を行うため、専門的な人材確保につながるような人材育成を継続すること。また、研修機会を通して、職員・ボランティア間の連携を強化し、より市民にとって効果的な事業となることを期待する。</p> <p>基礎知識を学ぶ機会の場の提供は、天文に興味・関心を持つきっかけにつながることから、継続した事業の実施を期待する。</p> <p>職員の資質向上につながる研修や講座等に参加し、情報の蓄積を続けており、評価する。これらの研修や講座で得た知識を活用し、今後も科学及び科学技術の知識の普及啓発に向けた取組に期待する。</p>
---	---	---

<p>・第25回国際博物館会議京都大会 (CIMUSET)</p> <p>・第4回札幌支部教育研究大会 (北海道小学校理科研究会)</p> <p>・第10回教師のための理科実験研修会 (北海道小学校理科研究会)</p> <p>・青少年のための科学の祭典in北海道2019 (科学の祭典in北海道実行委員会)</p> <p>・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会 (日本プラネタリウム協議会)</p> <p>・令和元年度全国科学館連携協議会北海道ブロック会議及び第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議 (北海道青少年科学館連絡協議会)</p> <p>・第55回北海道青少年科学館連絡協議会職員研修会 (北海道青少年科学館連絡協議会)</p> <p>・北海道小学校理科研究会第14回冬季研究大会 (北海道小学校理科研究大会)</p> <p>・第27回日立サイエンスショーフェスティバル (公益財団法人日立市民科学文化財団)</p> <p>▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。</p> <p>▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組を行なった。</p> <p>● 社会教育施設・団体等と連携し、以下の取組を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスZOO (動物園科学の日) (札幌市円山動物園) ・かるちやるnetへの参加 (事務局: 北海道博物館) ・CISEネットワークへの参加 (事務局: 北海道大学総合博物館) ・サイエンス厚別 (札幌市厚別区PTA連合会) など <p>● 学校教育機関等と連携し、以下の取組を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験実習セットの貸し出し 31団体101セット ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」の実施 8回 参加者157名 ・職場体験の受け入れ 5校 参加者19名 ・札幌市創意くふう作品展 (札幌創意工夫教育研究会ほか) ・北海道青少年科学技術振興作品展 (北海道発明工夫教育連携ほか) ・科学”大”実験 (北海道科学大学) <p>● 高等教育機関等と連携し、以下の取組を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「啓成SSHin光の広場」への協力 (札幌啓成高校) ・北海道インターナショナルサイエンスフェア (札幌啓成高校) <p>※新型コロナウイルス感染症拡大防止による臨時休館のため中止</p> <p>● 地域と連携し、以下の取組を行なった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新さっぽろ冬まつり (同実行委員会) ・あつべつ区民協議会イベントの参加、協力 など <p>● その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メカトロ教室 (一般社団法人日本機械学会) ・第5回マイコンレーザー北海道大会 (北海道ロボット教育推進会) ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト (一般財団法人日本宇宙フォーラム) ・ジオ・フェスティバルinSapporo2019 (同実行委員会) ・親子工場見学会 (一般社団法人セメント協会) <p>▼ 2階「学習コーナーにおいて、来館者が科学に関する学習ができるよう、テーマ別に資料を購入・展示した。</p> <p>▼ 季節ごとの天体の様子や天文トピックスを掲載した天文情報リーフレット「星空散歩」を発行し、地下鉄駅構内や市内公共施設などに配架した。</p> <p>6回43,000部</p>	<p>市内外の社会教育施設や大学、高等学校と連携し、イベント内容の充実化を図り、交流を深めることができた。</p> <p>地域に根差した博物館として、地域との連携は積極的に進めることができた。</p> <p>月や惑星の動き、季節ごとの天体情報などを市民に提供し、広く情報の発信に努めることができた。</p>	<p>科学館内だけではなく様々な社会教育施設と連携した事業を実施しており、評価する。このような交流から新たな交流、新たなイベントにつながることに期待する。</p> <p>地域連携は、科学館のより良い魅力発信につながることから、継続した取組に期待する。</p>
--	---	---

	<p>▽ その他科学等の設置目的を達成するために必要な業務</p> <p>▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援した。</p>	<p>解説や質疑を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。</p>	<p>双方向のコミュニケーションを通して、より深く学ぶことができる場を提供していくことで、科学に興味・関心を持つきっかけに多大に寄与するため、引き続き、市民の学習を支援する様々な取組に期待す</p>																												
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1" data-bbox="323 517 975 701"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H30年度実績</th> <th>R1年度計画</th> <th>R元年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td> <td>223,730</td> <td>200,080</td> <td>163,863</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム</td> <td>107,017</td> <td>97,460</td> <td>65,766</td> </tr> <tr> <td>セット観覧券(展示室・プラネタリウム)</td> <td></td> <td>33,500</td> <td>64,842</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>330,747</td> <td>331,040</td> <td>294,471</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="323 732 975 770"> <tr> <td>事業参加者数</td> <td>64,193</td> <td>-</td> <td>92,078</td> </tr> </table> <p>▽ 不承認 0件、 取消し 0件、 減免 0件、 還付 0件</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 夏冬の小学校等の長期休み期間以外でも、閑散期に家族で楽しめるイベント(スペシャルサイエンスデー、プラネタリウム祭りなど)を開催した。また、他団体との連携事業(かるちやるnet、サイエンス厚別)により新しい来館者層の掘り起こしに務めた。 さらに、札幌市天文台も活発な広報活動や地域イベントに協力した。</p> <p>▼ リピーターの拡大を図るため、展示室年間パスポートの販売を行った。また、小中学生を対象に会員を募り、メールマガジンでイベントの案内を行うほか、会員を対象としたイベントを実施した。 ・展示室年間パスポート販売 896枚 ・Sciキッズ会員 74名(新規37名、継続37名)</p>	区分	H30年度実績	R1年度計画	R元年度実績	展示室	223,730	200,080	163,863	プラネタリウム	107,017	97,460	65,766	セット観覧券(展示室・プラネタリウム)		33,500	64,842	総計	330,747	331,040	294,471	事業参加者数	64,193	-	92,078	<p>工夫した各種実験教室や特別展の実施、また広報の充実により、利用促進を図ることができた。</p>	<table border="1" data-bbox="1251 486 1474 517"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受けたため、前年度に比べて来館者が大きく減じている。 令和2年度においても、同感染症の影響を受けることから、感染症対策を講じながら、市民に科学を楽しく学ぶ場を提供できるような施設を目指すこと。</p> <p>利用者が減じないように閑散期に対する取組や、新規利用者の確保に向けた取組を実施しており評価する。 また、年間パスポートの導入により、リピーターの増加につながる取組も行っていることから、今後の更なる利用者数の増加に期待したい。</p>	A	B	C	D
区分	H30年度実績	R1年度計画	R元年度実績																												
展示室	223,730	200,080	163,863																												
プラネタリウム	107,017	97,460	65,766																												
セット観覧券(展示室・プラネタリウム)		33,500	64,842																												
総計	330,747	331,040	294,471																												
事業参加者数	64,193	-	92,078																												
A	B	C	D																												
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の向上に努めた。</p> <p>▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。</p> <p>▼ マスコミに対し、積極的に情報提供を行った。</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし。</p>	<p>プレスリリース等を積極的に行い、当館の事業について広く市民に知ってもらうことができた。</p>	<table border="1" data-bbox="1251 1252 1474 1283"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </table> <p>今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。</p>	A	B	C	D																								
A	B	C	D																												

2 自主事業その他		A	B	C	D						
<p>▽ 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 自動販売機事業 売上高 4,660,609円 ▼ 売店事業 売上高 6,366,510円 <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定した。 ▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用した。 ▼ 事業運営において、障がい者が利用しやすい環境づくりに取組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の貸し出し ・プラネタリウムでの補聴器貸し出し ・字幕付きプラネタリウムの実施 											
		館内利用や事業実施時に、障がい者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができている。	ユニバーサルデザインの対応含め、多様な市民が利用しやすい場となるよう工夫がされており、評価する。								
<p>3 利用者の満足度</p> <p>▽ 利用者アンケートの結果</p> <table border="1"> <tr> <td>実施方法</td> <td>夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらえよう声掛けをする形式で実施した。 集計件数358件</td> </tr> <tr> <td>結果概要</td> <td> <p>科学館の感想 とてもよかった(64.3%) / よかった(30.6%) / ふつう(4.8%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(60.4%) / よかった(31.3%) / ふつう(7.9%) / あまりよくなかった(0.0%) / よくなかった(0.4%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(67.2%) / よかった(28.2%) / ふつう(4.2%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p> </td> </tr> <tr> <td>利用者からの意見・要望とその対応</td> <td> <p>【意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報以外に展示物について知りたいという声19%あった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌で展示物を特集した記事を掲載したり、展示物をめぐるクイズラリーを開催した。 </td> </tr> </table>		実施方法	夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらえよう声掛けをする形式で実施した。 集計件数358件	結果概要	<p>科学館の感想 とてもよかった(64.3%) / よかった(30.6%) / ふつう(4.8%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(60.4%) / よかった(31.3%) / ふつう(7.9%) / あまりよくなかった(0.0%) / よくなかった(0.4%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(67.2%) / よかった(28.2%) / ふつう(4.2%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p>	利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報以外に展示物について知りたいという声19%あった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌で展示物を特集した記事を掲載したり、展示物をめぐるクイズラリーを開催した。 				
実施方法	夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらえよう声掛けをする形式で実施した。 集計件数358件										
結果概要	<p>科学館の感想 とてもよかった(64.3%) / よかった(30.6%) / ふつう(4.8%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(60.4%) / よかった(31.3%) / ふつう(7.9%) / あまりよくなかった(0.0%) / よくなかった(0.4%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(67.2%) / よかった(28.2%) / ふつう(4.2%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p>										
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント情報以外に展示物について知りたいという声19%あった。 <p>【対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌で展示物を特集した記事を掲載したり、展示物をめぐるクイズラリーを開催した。 										
			各種アンケート結果が良好であり評価する。引き続き、高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望に応えていくなど、市民サービスの向上に努めること。								

4 収支状況				A	B	C	D
▽ 収支 (千円)							
項目	R元年度計画	R元年度決算	差(決算-計画)				
収入	455,564	445,441	▲ 10,123				新型コロナウイルス感染症の影響により利用料収入が大きく減じている。 令和2年度においても、需要減などにより大きな影響を受けることが想定されるため、支出について、事業の実施規模や体制を再度見直し、純利益の改善となるよう検討を進めること。
指定管理業務収入	443,064	434,414	▲ 8,650				
指定管理費	363,413	363,413	0				
利用料金	77,210	60,958	▲ 16,252				
その他	2,441	10,043	7,602				
自主事業収入	12,500	11,027	▲ 1,473				
支出	454,613	445,859	▲ 8,754				
指定管理業務支出	444,623	438,666	▲ 5,957				
自主事業支出	9,990	7,193	▲ 2,797				
収入-支出	951	▲ 418	▲ 1,369				
利益還元	0	0	0				
法人税等	35	696	661				
純利益	916	▲ 1,114	▲ 2,030				
▽ 説明							
<p>収入面では、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館があったことから、観覧料が減収となり、利用料金が落ち込んだ。また、売店・自動販売機等の自主事業に関する収入は昨年度とほぼ同規模となった。支出面は、人件費や物品の購入を抑えたが、収支の均衡を図ることができなかった。</p>							

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		適	不適
▽ 安定経営能力の維持	▼ 当団体の財務状況等は良好である。		
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応	▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。		

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>常設展示・実演及びプラネタリウム等の運営を行い市民に対して科学への興味関心を喚起した。各特別展では、様々な分野のテーマを取り上げ、職員の企画力や専門性と、館のネットワークを生かし、オリジナティのある内容で展開することができた。</p> <p>館と札幌市天文台は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館となったが、SNSによる新たな情報発信の仕組みを構築することができ、より多くの市民に科学の情報発信及び館の取組など提供することができた。</p>	<p>「人と社会と対話する科学館への挑戦」と掲げたテーマはそのまま、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のもと、適正な事業規模や運営方法の見直しを行いながらそれぞれの事業の安定的かつ円滑な実施を図る。</p> <p>また、今回の感染症拡大を契機に、「新しい生活様式」に基づいた、館運営や各種学芸活動、生涯学習支援の新しいあり方について模索していく。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>常設展示を基本として、実演展示、企画展示、特別展示などにより幅広い市民に科学を楽しく学べる場を提供しており評価する。また、プラネタリウムでは、オリジナル番組を通して地元野球チームと連携したイベントを実施し、これまで科学館に興味・関心が低かった市民も積極的に参加し始める取組を実施している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今後の事業の運営手法においては見直しが求められるが、引き続き、科学館が市民に親しまれる施設となることを期待する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、科学館のあらゆる事業に対し「新しい生活様式」を見つけ、検討していく必要があるが、可能な限り事業をスクラップ(休止)するのではなく、市民にとって科学を楽しく学べる場を提供するためにはどのようなことが可能かの視点で整理するよう努めること。</p> <p>また、感染症対策としては、科学館に来館する手法以外にSNSを通して科学及び科学知識の普及啓発などを始めたことから、このような新しい学習の場、新しい学習のスタイルについても引き続き検討していくこと。</p>